

2014年3月期 第1四半期決算発表後 電話カンファレンス (2013年7月31日)  
主な質疑応答

出席者：

代表取締役 専務執行役員 瀬川達生

経営企画室 広報・IRグループ 松本良文

<質問者A>

Q：第1四半期の計画はもともと公表されていませんでしたが、今回の第1四半期決算の結果は社内ではどう評価されているのかコメントを下さい。

A：今回の決算についての社内の評価ですが、一番大きなポイントは今年2月28日に打ち出した収益改善計画を、全社を挙げてやり遂げているということで、第1四半期決算については順調な結果を出すことができたと考えております。

Q：上期の考え方ですが、第1四半期から第2四半期にかけて、同じような基調で推移するという見方なのか、それとも何かセグメント毎に出入りがあるのか、そのあたりは現時点でどうお考えでしょうか。

A：今のところは、第1四半期と同じように第2四半期も推移すると考えています。第2四半期以降、事業収益性を向上させるべく、更に構造改革を進めなければならないという認識でおります。

また、今期の通期予想については、事業環境につき不透明な部分があり、またセグメントにより若干の上ブレ下ブレの双方の可能性がありますが、全社として収益改善計画を予定通り進めていることから、据え置きとしています。

Q：マレーシアの現在の状況をご説明頂けるでしょうか。

A：予定通り計画を進めております。

<質問者B>

Q：説明資料の16ページ目の支出削減の意味を教えてくださいなのですが、第1四半期で27億円削減と書いてありますが、いつと比較して27億円削減ということなのか。

A：もともと2月28日に発表した収益改善計画において、12年度実績に対して50億円の支出削減を計画しておりました。その内訳は、経費が年間で3億円、購買費が17億円、物流費5億円、修繕費5億円、人件費20億円というものです。この第1四半期で、前年度の第1四半期と比べていくらか支出が削減されているのか、それを集計したのが27億円です。ただし、一部在庫に残る部分もありますので、この27億円の支出削減が全て増益に貢献している訳ではありません。

Q：支出削減はかなり進捗していると理解してよいのでしょうか？

A：前年度第2四半期以降、経費削減と人件費削減に取り組んでいます。これら経費、人件費については第2四半期以降削減額の伸びは少なくなってくると思います。今年、年間では45億円は削減出来るであろうという見込みは持っておりますが、そこから削減額が大きく増えるとは現時点では想定していません。

<質問者C>

Q：説明資料20ページのホルシムニューカレドニア S.A. の株式取得に関してですが、今年3月末に比べてのれんが33億円増えていますが、これがホルシムニューカレドニア S.A. の株式取得によるものという理解で良いのか、またのれんを償却した上で今年度から利益貢献をしてくるのか、差し支えない範囲で教えてください。

A：まず、のれんの件ですが、ご指摘の通り33億円ののれん、無形固定資産が増えているのはホルシムニューカレドニア S.A. の株式取得によるものです。利益にどこまで貢献するのか、具体的な金額は申し上げられませんが、今期に多少なりとも貢献してくれると認識しております。また、当社にとってはセメントの原料であるクリンカを出荷出来るというメリットもあります。

<質問者D>

Q：セメントセグメントが増益となっているのは、費用削減が中心だと思いますが、このあたりについての解説をお願いします。

A：セメントについては、3、4年前から固定費の削減を粛々と進めてきております。これに加えて、全社挙げての費用削減ということで、他のセグメントと同様に経費及び修繕費の削減、セメントセグメントに属する従業員の人件費等も削減しており、それが増益という形で現れていると認識しております。

以上